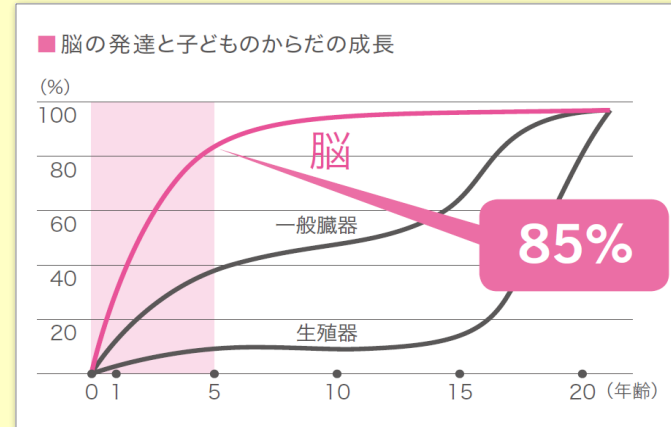


# くぼたのうけん くぼた式育児法 のご紹介

「賢い脳を育てる」ための0歳からの育脳教室「くぼたのうけん」より「くぼたのうけん くぼた式育児法」のご説明をさせていただきます。

## “本当の賢さ”とは

### I. 乳幼児期の重要性



脳は、生まれた直後から3~4歳くらいまでの間に大きく成長します。5歳までには成人の85%まで発達し終えてしまいます。『脳の発達と子どものからだ』(1981/久保田競著)より

「賢さ」というと、博識であったり記憶力が良かったりといったことを思い浮かべがちです。しかし脳科学の見地から言えば、「本当の賢さ」とは…

脳が豊かに発達していること

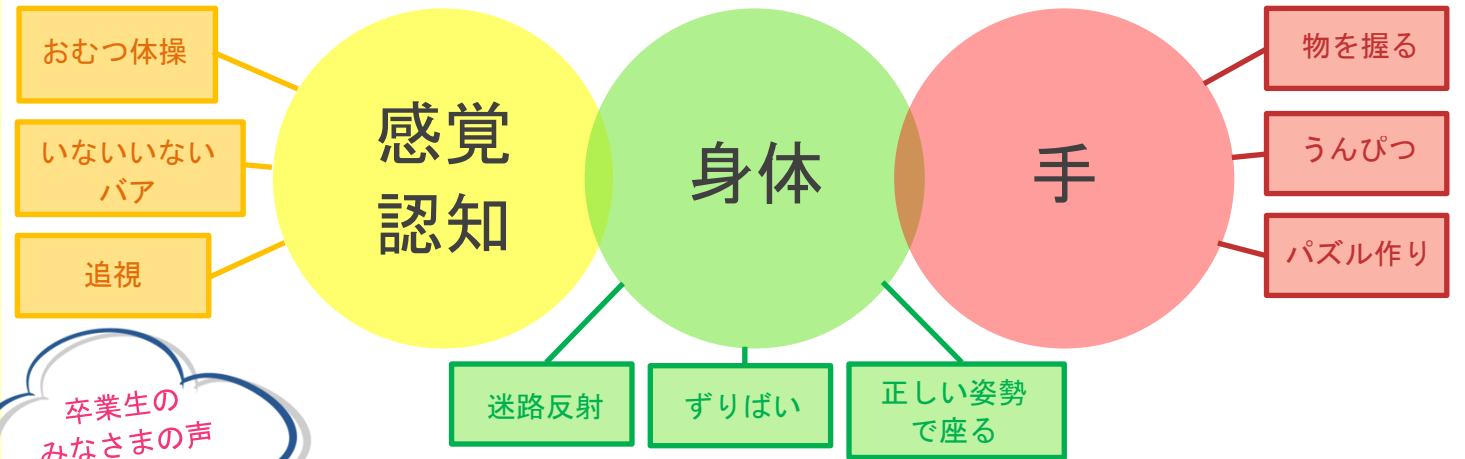
＝ 神経細胞どうしのつながり(シナプス)が多く、情報伝達のスピードが速いこと

脳を良く発達させることは、全ての能力を身につけるための「下準備」。情報伝達の速い脳を赤ちゃんのうちから育てておけば、勉強・運動・コミュニケーション能力、どんなこともオールマイティにこなす賢い子に育ちます。

## 脳科学に基づいた育脳カリキュラム

### III. カリキュラムの例 (一部)

「生まれた時から良質で新しい刺激を子どもに与え続けることが大切」とわかってはいても、ご家庭でそれを実践するのはなかなか大変。くぼた式育児法は、月齢・年齢ごとに「感覚・認知」「身体」「手」それぞれの観点から前頭前野を鍛える独自のカリキュラムを実践します。



0歳からの育脳教室「くぼたのうけん」でくぼた式育児法を修了した保護者様のご紹介をします。

- 長男・次男ともにくぼたのうけんに通わせて気づいたこととしては、2人とも集中力が非常に高いです。長男は小学生になりましたが、例えば宿題などは一度始めてしまうと声をかけても気づかないくらい集中しているし、終わらせるのも早いです。
- 5歳の長女、2歳の長男がくぼたのうけんに通っています。長男はすでに手先が器用で、洋服のボタンなども自分で留めます。2人とも記憶力・理解力も良く大人の話を理解してくれるので、駄々をこねたことがなく子育てがすごく楽でした！
- 幼児クラスのレッスンでは、毎回みんなの前で意見などを発表するよう促されます。そのおかげか、小学生になった今でもクラスで物怖じせず積極的に発言しています。

## 最新の脳科学×伝統的育児法

### II. くぼた式育児法について

「くぼた式育児法」とは、脳の発達時期に応じて、何を与え、何をさせればよいかを、脳科学研究の専門知識と実際の子育て経験をもとにして開発した「賢い脳を育てる」育児法です。

創設者

久保田 カヨ子 先生

(1932-2019)

夫である久保田競氏の脳科学理論に基づいた「0歳からの育脳法」を考案し自らも実践。日本の乳幼児の育児・教育に多大な影響を与えた。

脳科学者

久保田 競 先生

(1932-2024)

京都大学名誉教授、医学博士、脳科学者。東京大学医学部・大学院卒業後、同大講師を経て京都大学霊長類研究所にてサルの前頭葉の構造と機能を研究。同大教授、同大研究所所長を歴任。2011年春、瑞宝中級章を受章。

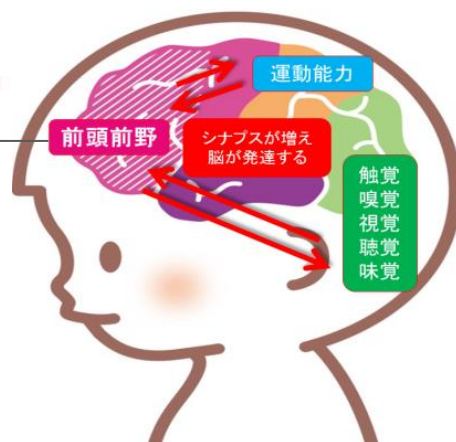
## 脳を鍛える＝「前頭前野」を鍛える

### 前頭前野 (前頭連合野)

「記憶力」「思考力」「判断力」といった考える力に影響する重要な領域。  
・同時に2つのことを行う ・順序だてて物事を進める ・決断する、etc

脳のネットワーク情報をまとめて、どう処理すればよいかをきめるところ。

脳は、良く働かせた部位ほど「シナプス」が増加し、発達していきます。くぼた式育児法のカリキュラムは、子どもの脳に五感から働きかけて前頭前野を集中的に刺激することで「考える力」を育てることを目的としています。



## 0歳からの親子教室 Kubotaのうけん

夫である脳科学者・久保田競氏の理論をもとに、「脳科学おばあちゃん」こと久保田カヨ子氏が創設。東京・神奈川・中心に13教室を展開する乳幼児教室です。



久保田ご夫妻の著書は多数。また「Kubotaのうけん」は、今までも多数のメディアや書籍で取り上げられました！

## 株式会社 城南進学研究社



株式会社城南進学研究社は、総合教育ソリューション企業として「城南コベッツ」などの個別指導教育事業、「城南予備校オンライン」などの大学受験教育事業、「デキタス」などのデジタル教育事業を軸に、乳幼児・児童教育事業、英語教育事業、スポーツ事業等を運営し、「城南進研グループ」を形成。SDGsへの取り組みも強化しています。